

第 4 回
石川町地域公共交通活性化協議会

日時：平成 26 年 1 月 29 日（水）14：00～
会場：石川町共同福祉施設 2 階 会議室

【議事次第】

1. 開会
2. あいさつ
3. 報告・協議事項
 - (1) 石川町地域公共交通総合連携計画（素案）について
 - (2) パブリックコメントの実施について
4. その他
5. 閉会

【出席者】

所属	役職	氏名	備考
石川町	町長	加納 武夫	
福島交通株式会社	石川営業所長	佐藤 秀男	
有限会社野本観光バス	代表取締役	野本 和義	
マルイチ新石川タクシー 有限会社	マルイチすけがわタクシー センター長	小松 正朝	
有限会社三光タクシー	代表取締役	野崎 勇雄	
東日本旅客鉄道株式会社 水戸支社	水郡線営業所長	箕輪 敏夫	
社団法人福島県バス協会	専務理事	千代谷 俊行	
一般社団法人福島県タクシー協会	県南支部長	金澤 寛二	欠席
国土交通省東北地方整備局 郡山国道事務所	調査課長	佐藤 幸喜	
福島県県中建設事務所	主幹兼企画管理部長	磯松 教彦	代理 企画調査課長 大竹和彦
国土交通省東北運輸局福島 運輸支局	主席運輸企画専門官	兼平 悟	欠席
ふくしま自治研修センター	総括支援アドバイザー兼 教授	吉岡 正彦	
全国自動車交通労働組合 連合会福島地方本部	書記長	大槻 政好	欠席
福島県県中地方振興局	県民環境部副部長兼県民 生活課長	渡邊 昌明	
石川警察署	地域交通課長	平子 誠	
石川町区長会	会長	鈴木 健一	
石川町商工会	副会長	橋本 栄一	
石川町社会福祉協議会	副会長	永沼 栄一	
石川町長寿会連合会	山橋地区長寿会連合会事 務局長	高原 栄紹	
石川町婦人会連絡協議会	会長	小林 ヒサ	
石川町 PTA 連絡協議会	会長	佐川 正美	
福島県立石川高等学校	校長	安瀬 一夫	欠席
福島県立石川養護学校	校長	大関 彰久	代理 大和田勝也
学校法人石川高等学校	校長	森 涼	
石川町役場総務課	課長	小松 弘喜	
石川町役場総務課政策推進係	課長補佐兼制作推進係長	首藤 剛太郎	
石川町役場総務課政策推進係	主査	迎 茂城	

【議事録】

1. 開会

2. あいさつ

吉岡副会長 (ふくしま自治研修センター)	みなさん、こんにちは。今日もお忙しい中、時間前にお集まりいただいて、大変ありがとうございます。今日は4回目ということで、起承転結ではありませんけども、後半ということで、これまでの3回の議論を全て集約した形で、連携計画の概要がまとまるということで、協議のご報告をさせていただくことになっております。今日も引き続き、忌憚のない熱心なご議論をいただければと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。
加納会長 (石川町長)	みなさん、ご苦労さまでございます。先ほど吉岡先生が挨拶されたとおりでありまして、このあと用事があって出かけてしまいますけども、吉岡先生に稟議書を収めていただきますが、どうかひとつ忌憚ないご意見をいただきながらまとめていきたいと思っております。皆さん方には大変お世話になっております。それでは、吉岡先生、よろしくお願いします。

3. 議事

(1) 石川町地域公共交通総合連携計画（素案）について

(事務局より資料説明)

吉岡副会長	参考資料の6ページのところですけれども、200～300円ぐらいで利用できるっていうのは住民の皆さんにとってはありがたい話だと思うんですが、3割ぐらいが収入と協賛金で賄えている、逆に7割ぐらいは市が補填をしているってことになりますか？
事務局	山口市さんの場合ルールがありまして、ざっくり言うと7割までは、市が地元で補助する、3割～2.5割は収入や協賛金で賄ってくださいね、というルールがあります。
吉岡副会長	そうすると山口の例だと、すべての経費・収入の合計値がないので分からないんですけど、やっぱり、収入に対して経費の方がかなり大きくなっているんで、その分を市が補填している、まあトータルすると3,000万ぐらいになるんですかね？だから、石川町に置き換えても、同じような事をやったら、そのまま同じような計算でやれば町の負担がそれなりに増えてくる。先ほど2,700万円ほどの実態がありましたけど、さらにそれを上回るような形で負担が増えてくる、という様な理解でよろしいですね？
事務局	24年度ベースで2,700万の支出ですけど、仮にバス交通の地域ごとに整備をした場合、多く見積もって須賀川・白河・古殿方面を残した時に必要な経費というのは1,800万ぐらい、と私の方では試算しております。 で、町があとどれだけ公共交通に費用を割けるのか、ということになると、およそ3,000万程度じゃないかな、とは見込んでおりますけれども、残った部分で国の補助をどうやりくりしていくか、っていうところは、個別っていうよりは全体的にどの程度っていうところで考えていただきたい。 こういった地域で黒字化するっていうのは、まず不可能と認識しております。そこをいかに上手に穴埋めしていくか…。
吉岡副会長	そうすると、今、2,700万なりっていうのもあるんですけど、現状も見直して収支をある程度改善したとしても、さらにきめ細かなコミュニティタクシーなり、という様な形でサービスを増やしていくと、やはりそれなりの負担がかかってくるという事だと思います。その辺について、これからこの計画を来年度以降も皆さんと議論していこうという、そういう趣旨になろうかと思います。
佐藤委員 (福島交通)	新たに3,000万円ということですか？それとも、両方合わせてですか？
事務局	トータルで3,000万円を考えております。
吉岡副会長	それでは、質問をいただいても結構ですし、議論を始めたいと思います。

(ふくしま自治研修センター)	今、説明をいただいて、結局、公共交通といいますと、手段としては鉄道なりバスなり或いはタクシーもありますし、利用目的については皆さんそれぞれの立場に立つんですけど、通勤通学、買い物、通院、その他日常の利用、いろんな立場でそれぞれの利用の仕方があるというところで、この計画でそれぞれ皆さんがそれぞれの立場に立ちながらこの計画を理解して、さらにどうしていったら良いのか、という様なご意見が出てくるだろうと思います。この後パブリックコメントの議論になるようですので、今日皆さんにご承認をいただきましたら、この素案をベースに、広く町民の皆さんに投げかけるような形になろうかと思っておりますので、今日はそういう意味では修正が加えられる最後のチャンスだな、という様にも思います。どうか忌憚のないご意見をいただければと思います。 自由にご質問いただければ、と思います。いかがでしょうか？
大竹委員(福島県県中建設事務所)	来年以降、この計画を基に、町内移動型の検討を重点的にやるという話でしたが、今、水郡線とか広域移動軸とか白河・須賀川・古殿方面 15 人以上乗ってる路線なんですけど、これらについても今のままで良いというよりは、やはり同時並行にもっと増やすような工夫と言いますか、さらに 15 人以上 20 人とか、その辺はやはり同時並行にやらないとマズイのかな、と思います。これで良い、というふうに甘んじてはダメだと思うんですけども、何か来年、町内移動型と同時並行にやるような事があるのかどうか、お聞かせ願いたいです。
事務局	今のところ、具体的に何か、広域移動軸についてなにかやるとは考えていないんですが、同時に地域内に移動を再編するにあたっては、そこは同時並行というのはおっしゃるとおりで、これから採用になりますが、そこも考えていきたいな、と思っております。
大竹委員(福島県県中建設事務所)	例えば 79 ページ、ガイドブックとか、これも当然、内々の移動だけじゃなくて、広域の皆さんにお伝えするっていうのも必要なのかな、と。改めてですね。そういう同時並行でやる作業もやられた方がいいのかな、と思ったものですから。
鈴木委員(石川町区長会)	今、石川町にまちなか再生計画っていうのがあるんですね。これでまちなかになんとか賑わいを取り戻そうということで、雇用を生み出して町に人を呼び込もうとしています。観光事業を絡めて呼び込もうとやっている訳ですよ。
吉岡副会長	まちなかの活性化ということで、動きがあるということですよ。
事務局	まず最初に、通常でも広域移動軸につきましては、ダイヤの改正ですとか停留所の再編等含めて、毎年相談を受けて「こうすれば少しは良くなる」みたいな事でやっております。当然、15 人維持できているとか、あるいはギリギリの部分につきましても何とか利用促進を図っていききたいと考えています。今ご指摘いただきましたようなガイドブックの作製ですとか、通常利用している高校生なんかファンクラブですとか、なんとかクラブみたいな設けて、その路線を愛してもらえよう、より親しんでもらえよう、という取組みみたいなソフトみたいなものの検討できれば、などと考えております。 それから今、鈴木委員がおっしゃった、まちなか再生計画ですが、特に中心市街地の賑わいを取り戻そうという取り組みの中でも、お買いものバスとかお買いものタクシーとか、そういったものも合わせて考えていこうと思っています。
吉岡副会長	今の説明は、幹線についてはですね、隣接市町村の関係もありますけども、大きな枠組みの中で、たぶん行政が中心となって対応するかと思います。あと、街中の交通に関してはやはり地域の皆さんと一緒にやって来年度以降も議論していきたい、ということになろうかと思っております。
吉岡副会長	まあ、確かに街中の賑わいを作っていくっていうのは、公共交通の大きな軸になるかもしれませんので、うまくリンクして考えていく必要があるかと思えますね。
森委員(石川高等学校)	すいません、2 回目 3 回目欠席だったものですから浦島太郎状態になってますけど、町としては将来的には基幹路線の 3 本を残して、それ以外の物はすべてコミュニティタクシーで網羅する、という考えなんでしょうか？ 例えば活かしたいと思った時に、どのくらいの路線のコミュニティタクシーを想定されているのか、全然イメージできないので、お聞かせいただければ…。
事務局	街中のコミュニティタクシーのイメージとしては、4 つほどかな、というふうには考えております。まずは沢田方面に 1 つ程度、母畑とか野木沢方面に 1 つ程度、あとは中

	田方面・山橋方面。今のイメージではその程度で、人口の集積とかいろいろあるので、例えば高齢者の皆さんがもう少し近くまで、という場合には、逆に経費から見てタクシー券という形で助成する方法も個別にあるのかな、とも考えております。
吉岡副会長	今の迎さんの答えは、12路線あるうちの3路線除いた9路線を、4つのコミュニティタクシーに置き換えているという考え方ですか？
事務局	イメージはそうです。
事務局	ちょっと補足します。基本的に、72ページに書いてあります町内移動サービス、この部分で運行できれば、人口密度が高くて幹線道路と接していないがために、本当だったらもうちょっと乗りたい人がいる、需要があるにも関わらず、なかなか今の路線バスも利用できない方々を掘り起こして、より良いものが出来るだろうという発想なんです。 ただ、それを実施していくためには、今ある各路線バスはとりあえず維持しておかないと、今利用されている方もいるので、地元に入って行って、その説明をしていく中で、いや、その路線じゃなくて、ここ回ってもらえばこれだけ需要がありますよ、その中で代替りの利用手段を地元の或いは新たな事業者さんがこういったこともやれるよ、まとめたり次第変えていく、という流れを想定しています。 ですから26年度以降は町としては今言った4つの地区辺りでそういった事業を、5年間かけて、展開できるような仕掛けはしていく予定です。そうは云うものの、あんまり乗る人いないんじゃないの？いないよ、ってなれば、なかなかそうも進まないでしょうし、そういう事できるのなら地元で何かやってみようとなれば、随時そういったものを、軸に入っていて勉強会を開催しながら、あるいは実証運行しながら行っていくイメージでおります。
森委員 (石川高等学校)	そうしますと、対象は、老人であり、学校関係だって、もちろん生徒でもあって、そのニーズによっては1日5〜6便出たり、出ないところであれば1〜2便であったり、そういう臨機応変な対応でこれからやって行かれる、ということですか？
吉岡副会長	急に変えていく、っていうのではなくて、5年間かけて地域に入った話し合いの中で、適宜、今の路線を必要があれば見直していく、という説明でよろしいですね。
事務局	その通りです。
吉岡副会長	今の話をまとめますと、3つの基幹路線については、他市町村の動きを見ながら、今後協議をしていくという事で、それ以外の路線については、現状を踏まえつつ、地域の話し合いの中で、見直す必要があれば見直しをして、町の方としては4つの方面で整備をしていくというような話になるのかな、というように思います。 そんな町の将来像という事ですけれども、よろしいでしょうか？ よりきめ細かなサービスを行っていくという方向になろうかと思えます。反面、既に言われているとおり、人口絶対数自体減っています。それから少子高齢化という中で、なかなかこれまでどおり町が税制的に負担していくのは厳しいという中で、サービスの仕方の見直しをしつつ、地域の皆さんにご協力をいただきながら、よりニーズに的確に答えられるような、今後の方向性を検討したい、という事だろうと思えます。 このアンケート見ても、公共交通を抑制したいという意見の方が多いただろうと思えますが、必要な人にとっては絶対に必要な手段だ、と思えますが、そういう方々に対していかに効率的なサービスが提供できるのか、というところだろうと思うんですね。そうすると今のとおりで果たして良いのか、場合のよっては空のバスが走っていれば、実態を見直しつつ最小限必要な人員を満たしていく、財政負担も抑えていく、そうは云っても今後増えていく可能性は大きいという事ですけれども、そういう様な方向性が今後石川町の姿になっていくのかな、というところだと思います。 そうすると福島交通さんと地元のタクシー会社さんも、コミュニティタクシーの部分で変わっていく部分も出てくるかと思えます。こういう計画があるなら早く実施してくれよ、という意見もあるかもしれないんですが、やはり地域の皆さんの了解を取りつつ進めていくとなると、山口市の例を見ると10年15年ぐらい経っている様ですので、同意を取りながら1個ずつ進めていくとなると時間がかかってしまう、というところだと思います。その他、素案なり参考資料なりご意見なりご質問なりいかがでしょうか？

森委員 (石川高等学校)	バスの事についてはよく分かりました。ただ、公共交通には水郡線というものもありまして、水郡線を使ってこの町に入ってくる生徒が毎日 400 人ぐらいいるんですね。そういった子供たちが毎日利用する駅舎も、かなり古くなってきておりますし、その本数も少なくてやむを得ないところかもしれないんですが、私としては水郡線駅舎石川駅に対する将来的なビジョンとかは改稿何もない状態なので、子供たち・高校生がちょっとでも時間をつぶせるような新たなコミュニティを作っていただけると非常にありがたい。そういった水郡線に関わるそういったビジョンは何かあるんですか？
吉岡副会長	コミュニティを作るというのは、例えば駅舎周辺に何か集会所みたいな…？
森委員 (石川高等学校)	集会所というか、生徒達が気軽に立ち寄れるようなスペースといいですか、駅舎の中に、少し生徒が雑談できるような、そんなスペースができないか？という様な要望も合わせて考えられないか、ということです。
事務局	まず、ダイヤ・駅舎の関係ですけど、町だけでは難しい面もあるということで、県の鉄道課や JR 東日本の水戸支社の方にダイヤの改正ですとか、駅舎の設備改築の要請を出してなかなか通らないところなんですけども、特に石川高校さんからは朝の棚倉から入ってくる車両の 1 両増設という要望もなかなか実現しないところなんです。まあ、今後もそういう要望活動は続けていく予定であります。 JR さんに頼んでも出来ないんだったら、今回、町が駅前にトイレ作るやつあるでしょ？あんな感じで何か駅周辺に…という話もあろうかと思うんですけど、今回のこの協議会のこの計画の中に関連した部分で言えば、JR 磐城石川駅というのは乗継拠点の 1 つに位置付けられてることから、これは公共交通としての屋根付きの物ですとか、そうじゃない雨風凌げるような、或いは冬だったら暖を取れるようなそれぐらいのものを置か、というのは、今後、利用実態なり状況なりを踏まえてどれだけお金かけられるかは、そういった視点からの検討が加えられるというところなんです。
事務局	私の方から補足をさせていただきます。水郡線の関係、なかなか難しいところですけども、重点的にやっております。今回、街中再生行動計画、26 年度からのことについて、で、町内の高校生 200 人、未来の町のいちばん大きな力となる。で、駅の扱いのところですね、踏まえて、駅のたまり場的な部分ですね、ちょっと休憩ができる、駅前のところの民間利用、そういうのも再生行動計画の中に位置付けて、民間利用、あと、公がどこまで関わる事が出来るかというのがありますけど、そちらの方も再生行動計画の中で具体的に示していきたいという風に思います。当然、中心市街地の部分、町、駅の表玄関というところも、合わせて全体として整備していきたいと考えております。
吉岡副会長	今の話は生徒の話ですけども、生徒に限らず、観光客なり、町民の皆さんのご利用ということも含めてですね、町の活性化ということで、そういったコミュニティの交流の場所というのを街中再生計画の中で考えていくという事でよろしいでしょうか？ 今日、水郡線の方、欠席なんですよ？まあちょっと残念なんですけど、僕も他の沿線の街のこういう計画に携わっていて、ただでさえ赤字路線なんで、厳しいところもあるんですけど、おそらく現実的には合わせ技で、JR をお願いしつつも JR に頼ることなく、地元の企業なり或いは NPO さんなり団体なり商工会もですね、いろんなところが力を出し合ったり資金も出し合ったり、そういった拠点を作っていくことが現実的な解決策かな、というように思うんですけどね。 この公共交通もそうなんですけど、今、結構大きな流れとしては、地元が負担をしていくっていう、利用者が料金を負担するだけでなく、この山口市の例もありましたけど、協賛金のような形で路線の維持に向けて、別途、町内会なり自治体が費用を補填をしていく、と。それで利益を得る買い物先のスーパーさんでもですね、協力金を出すという様な形でお金を出し合ったり維持していく、という様な動きが必要になってきますよ。当然 10 年前・20 年前と考えると利用者は絶対的に減っている訳なんで、同じ路線を維持しようとするばやっぱりそういう状況に成らざるを得ないというのが、時代の変化という様な認識になろうかと思います。そういったことを踏まえつつ、おそらく今後地域の皆さんが、今の公共交通をどうしていくのかという、基本的に公共交通って利用しなければ廃止されるのが当たり前の話なんで、どう利用を作っていくのか、ということが考えていかなきゃいけない、そういう状況になってきているんだろうと思います。そういう

	意味で、こういうきっかけの場が出来たっていうのは本当に良い事だと思います。まだこういう動きがない市町村さんもありますから、そういった所から比べると1歩前進しているの、こういった機会をうまく利用して、引き続きどうしていったら良いのか、より効率的な・効果的な公共交通の在り方を皆さんで協議していくべきなんだろうと思いますね。
野本委員 (野本観光バス)	交通弱者の方が病院に行きたいとなった場合と、災害が起きた場合とを同時進行で考えていかないといけないと思います。
事務局	今のところ、鉄道とバスについては3路線ですけど、これが万が一何かあった場合、特に水郡線が非常に止まりやすいんですけど、3・11の時もバスルートが非常に重要な役割をした、その視点を計画書の中に活字化してもらいまして、じゃ、その主要3路線だけで良いのか、須賀川、白河、古殿に抜けるための3つの軸がありますので、概ねそこはカバーできるのかな、という考えでおります。ただ、災害時における輸送という視点を計画書の中に活字で付け加えさせていただいてよろしいですね。
吉岡副会長	勿論、付け加えてください。貴重な指摘だと思いますよ。あんまり経費の節約ばかり考えて、リスクマネジメントが出来ていないのではいけないところですから、それを含めて報告書の一部見直しになるのでしょうか、盛り込んでもらいたいと思います。 前回、病院バスをうまく利用できないか、という話もあって、その辺も今後、検討材料の1つに入れても良いんじゃないかな、と思うんですけど、全て福島交通さんをお願いするっていう事じゃなくて、場合によっては病院バスを上手く活用しつつ、もし出来るんだったら、お金を負担してもらって病院バスを一般の路線バスないしコミュニティタクシーなりに統合していくというやり方もありますし、逆に病院バスに一般の利用者を乗せていただくということで混乗として使っていくこともあるので、せっかく石川町も病院バスが結構出ているので、その辺の検討も、おそらくそれぞれの病院もお考えはあると思うので、一律うまくいくとは限らないとは思いますが、その辺を含めて計画の中でも検討していくという姿勢を書き込んでも良いんじゃないでしょうか。
佐藤委員(福島交通)	災害の時の事ばかり言われても、実際の路線とか廃止していれば、当然、自会社としては余分な運転手とか車両を確保しておけないんですから、実際路線がなくなれば対応が難しくなります。その点を憂慮しております。
吉岡副会長	勿論、そういう懸念が出てくる、ということはあるですね。
事務局	先ほどの先生の病院バスの件ですけど、実は12月に送迎をやられている各病院を回ってお話をお聞きしました。4つの病院のお話をお聞きして、今後どうしたいかをお聞きしたところ、4つのうち1つは、もし経費とか人的な黒とかがあって縮小出来るならしたい、という話でしたが、残りの3つは今の段階ではすぐに何か出来るところではないという感触があったのですが、将来的には一緒になってやって行けるところはやって行ければ…、というところですけど、その辺りは計画書の中では触れられていないので付け足せるのであれば…。
吉岡副会長	病院にヒアリングしていただいたということですね。
高原委員 (山橋地区長寿会連合会事務局長)	基本的な質問なんですけど、参考資料6ページ1番の運賃体系がありますが、こういった体系のような、実際に今福島交通さんなどは、乗れば乗るほど料金が高くなっていく、そういった体系にせず定額にするという事なんですか？
吉岡副会長	山口のコミュニティタクシーの場合ですね。200円ないし300円になっているけど、これは距離と関係ないのか？という事ですね。
事務局	ここは定額でやられています。 まず1つ福島交通さんと違うところは距離というところで、福島交通さんの場合は非常に距離が長い、25kmとか30km片道あるようなそういう路線です。そこを一律200円にしてみると1kmの人も20kmの人も200円みたいな事になっちゃうんですけど、この場合は6kmとか10kmとかです。乗れる方も地域の方と決まっていたりしていますので、地域の方だけ扱うものというイメージで、定額で良いだろう、という考え方だと思います。

	では、石川町では運賃はいくらに設定するのか、という疑問が湧いてきますが、それは、原価があってそれに対していくら、ということですので、地域によって考えていけばいいかな、と思います。
佐藤委員（福島交通）	距離を短めに設定して定額にするという発想だと思うんですけども、そうすると4路線ではとてもとても網羅しきれないような気がします…。
吉岡副会長	まあ、大きな4つの方向で、ということなんで、具体的な路線としては細くなるのかもしれませんが。 コミュニティタクシーの場合には採算よりも、まずは利用していただくというのが趣旨になるので、特に高齢者の方に街中なり運動とか外出していただく事で健康になっていただくというのが趣旨になっているところあります。だから200円ないし300円ぐらいで街中を回っていただくという事なんですけど、場合によっては多少、300円だったり500円だったり、ある程度自治体なりやり方の工夫や考えで出きると思います…。いずれにしても200～300円だと安すぎるな、っていう感じはしますけどね。その他、いかがでしょうか？ それでは、ご意見ご質問も出尽くしたと考えられますので、（1）石川町地域公共交通総合連携計画（素案）についてということで、一部見直しをお願いしたところもありましたけど、こんな形でパブリックコメントの方へ参りますがよろしいでしょうか。 それでは次に（2）パブリックコメントの実施について、事務局から説明をお願い申し上げます。

（2）パブリックコメントの実施について

（事務局より資料説明）

吉岡副会長	それでは、今、迎さんからご説明いただいたパブリックコメント実施要項ということですね。パブリックコメントってわざわざ英語で言わなくてもいいじゃないか、っていうのもありますけれども、昔で云えば「広報」「広聴」ということですね。この計画を皆さんにお知らせをしてお意見をいただく、そういう機会を設けたい、という事ですね。2月3日～2月28日、ほぼ2月1ヶ月間ですね、皆さんのご意見を募集したいという事ですけど、何かご意見ありましたらお願いいたします。
吉岡副会長	確認なんですけど、パブコメに書ける資料としては、これ1冊を皆さんに見ていただくような事を想定していいですか？例えば、概要版的なここだけ見てもらえればいいよ、っていう様なものとかあると、分かりやすいかなと思ったんですけど。
事務局	仰る通り、全ての現状があったり資料があったりとか、全てを見ていただいた上での総合計画だと思うので、非常に専門的すぎて難しいとは思いますが、全て見ていただいてご意見をいただくことを聞いております。
吉岡副会長	概要版は特には作らないということですね？
事務局	はい、作らない方がよろしいかなと思います。
吉岡副会長	アンケートの結果なんかは公開するんですか？素案だけですか？
事務局	アンケートは大切な資料です、付属資料として添付したいと思います。

5. その他

6. 閉会